

DERWENT-ACC-NO: 1999-616312

DERWENT-WEEK: 199953

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Construction method for floor material e.g.
tile carpet
fixed to foundation

PATENT-ASSIGNEE: KONISHI CO LTD[KABG]

PRIORITY-DATA: 1998JP-0114078 (March 20, 1998)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 11270115 A	October 5, 1999	N/A
000 E04F 015/16		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP 11270115A	N/A	1998JP-0114078
March 20, 1998		

INT-CL (IPC): E04F015/08, E04F015/16

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 11270115A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - The method involves sticking a two sided adhesive tape (5-8) on each adhesive coating space (4) defined between reference lines (2,3) on a foundation. The peel strip of each adhesive tape or adhesive is removed, after which floor materials e.g. tile carpets (10) are laid on the foundation.

USE - For constructing floor material on foundation.

ADVANTAGE - Ensures accurate floor material laying without accidentally moving floor material after construction ends. Provides durability to floor material since it is clung to foundation by adhesive. Maintains beautiful seam between

floor materials for long period of time. Ensure adhesive coating space between reference lines.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the plan view of a tile laying process in a floor material construction.

Reference lines 2,3

Adhesive coating space 4

Adhesive tape 5-8

Tile carpet 10

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/1

TITLE-TERMS: CONSTRUCTION METHOD FLOOR MATERIAL TILE CARPET FIX FOUNDATION

DERWENT-CLASS: Q45

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1999-454506

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下地上に表した基準線に一辺を沿わせて敷設する床材を、一時固定のための両面粘着テープと永久固定のための接着剤とで下地に固定する床材の施工方法において、基準線との間に接着剤塗布スペースを設けて下地上に両面粘着テープを貼着し、床材を敷設する下地上への接着剤の塗布と両面粘着テープの剥離紙の除去を行った後、床材を敷設する床材の施工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【技術分野】本発明は、下地上に表した基準線に一辺を沿わせて敷設する床材を、一時固定のための両面粘着テープと永久固定のための接着剤とで下地に固定する床材の施工方法に関するものである。

【0002】

【従来技術とその問題点】従来、Pタイルやタイルカーペット等の床材を下地に敷設するに際しては、下地上に基準線（下地の中央付近に描いた十字状の敷設開始線）を表すと共に接着剤をクシ目コテ等を利用して塗布させた後、線の交差部から基準線に沿って床材を敷設し、次いでその外側へ順次床材を敷設する施工方法が行われている。この施工方法では、作業者はすでに敷設した床材の上で次列の敷設作業を行うことになるが、敷設されたばかりの床材の接着剤は未だ硬化していないため、作業者の体重移動、ひねり、歩行等に伴って床材が動いてしまい、基準となるべき床材の位置にずれが発生するおそれがあった。

【0003】床材を動きを防止するために、両面粘着テープやこれと接着剤を併用する施工方法が採用され、基準線に沿った床材を作業中は粘着テープによって固定させることによって、床材の敷設作業を円滑に行えるようにしている。この公知技術として、特開平5-163825号公報や特開平7-133662号公報に開示のものが知られている。前者はタイルカーペットの敷設に関するもので、下地上に設定した基準線の中心と単位カーペットの継ぎ目の位置に接着テープを設置し、基準線にカーペットの一辺が沿うようにクロス状に単位カーペットを敷設し、敷設したカーペットに沿って正確にカーペットを順次敷き詰めていくのである。後者の公知技術はステンレスシートの敷設に関するもので、シート裏面の周縁に粘着テープを貼着すると共にその内側に接着剤を塗布し、その状態で被接着面に押しつけて貼付ける施工方法である。

【0004】しかしながら、粘着テープはその使用の初期の段階においては十分な固着力を発揮できるものの、固着力に耐久性を期待することができない。テープの粘着力が小さくなると、使用中に床材が下地から剥離して隙間にホコリ等が侵入したりすることになる。いずれの公知技術においても粘着テープは床材の周縁に沿う位置に貼着されているため、床材の剥離は周縁から発生する

ことになる。そうすると、継ぎ目が浮き上がって歩行者がつまづいたり、掃除中に端縁が捲れたりして、床材に永久的な曲がり癖を付けてしまう不都合がある。

【0005】

【技術的課題】本発明は、下地上に表した基準線に一辺を沿わせて敷設する床材を、一時固定のための両面粘着テープと永久固定のための接着剤とで下地に固定する床材の施工方法において、施工時の床材の移動を防止すると共に床材の継ぎ目における固着力に耐久性を持たせることを課題としたものである。

【0004】

【技術的手段】この技術的課題を解決するための技術的手段は、(イ)基準線との間に接着剤塗布スペースを設けて下地上に両面粘着テープを貼着し、(ロ)床材を敷設する下地上への接着剤の塗布と両面粘着テープの剥離紙の除去を行った後、(ハ)床材を敷設すること、である。

【0005】両面粘着テープは、基準線に直接沿って貼着されるのではなく、基準線との間に接着剤塗布スペースを設けて下地上に貼着されている。そのため基準線に床材の一辺を沿わせて敷設すると粘着テープは床材の中心部側、すなわち基準線に沿う一辺とこれに対向する一辺との間に位置することになる。両面粘着テープは、いわゆるテープの他シート状のものを含むものであるが、これを基準線に沿って連続又は断続して下地上に貼着することになる。

【0006】床材を敷設する下地上への接着剤の塗布と両面粘着テープの剥離紙の除去が行なわれると、下地上には基準線に沿って接着剤塗布部と粘着剤部とが区分けされて現れることになる。接着剤は、貼着されている粘着テープを避けて塗布するようにしても良いが、一旦剥離紙の上面を含む全体に塗布した後剥離紙を除去すれば、簡単に両者の境界を明確にすることができる。

【0007】基準線に一辺を沿わせて床材を下地上に敷設すると、床材は中心部側が粘着テープによって一時固定され、他の部分が接着剤によって永久固定されることになる。したがって、床材は基準線側とその反対側の辺が接着剤で固定される。他の二辺は、粘着テープの貼り方によって若干相違するが、辺上の中間に粘着テープが臨んだ場合であっても、その部分を除いては接着剤で固定されるため、床材の四辺の継ぎ目における固着力に耐久性を持たせることができる。

【0008】床材の材質は特に限定されるものではなく、一般に使用されている樹脂系やゴム系のタイル、コルクや合板等の木質系タイル、繊維物その他の繊維系タイルの他、金属、石材、陶磁器等からなるタイルを敷設する場合においても本発明を使用することができる。両面粘着テープは市販のものを使用することができる。下地の表面に凹凸がある場合には、ゴム弾性を備えた支持体に粘着剤層を形成したテープを使用することが望まし

3

い、弾性を備えた支持体としては、発泡体、ゴムや樹脂内に中空体粒子を混入させた疑似発泡体等からなるシート、織物、不織布等を好適に使用することができる。床材を固定するための接着剤は、アクリル系、ゴム系、エポキシ系、ウレタン系等の公知の接着剤を使用することができる。なお、これらの接着剤のうち液型の無溶剤湿気硬化型接着剤を使用すると、環境の汚染もなく、時間の経過と共に接着力が大きくなる利点がある。

【0009】

【発明の効果】施工時に床材の移動を防止できるため、円滑且つ正確な作業を行うことができる。また、床材の四辺の固着力に耐久性を持たせられる結果、使用中にその端縁が下地から剥離しなくなり、床材のきれいな継ぎ目を長期にわたって維持することができる利点がある。

【0010】

【実施の形態】図1は、下地1上にタイルカーペット10を敷設施工する一例を説明するためのものである。最初に、下地1とタイル10の大きさや配列具合を勘案して、鉛筆等を使用して下地1上に基準線2、3を十字にクロスさせて表す。この基準線2、3によってタイル10の敷設部がa、b、c、dの四つに区分される区分aにおいて、基準線2、3から接着剤を塗布するスペース4、4を設けて両面粘着テープ5、6を剥離紙を表面につけたまま下地1に貼着し、基準線2、3に沿って敷設する予定のタイルスペース上に接着剤を塗布し、両面粘着テープ5、6の剥離紙を除去し、タイル10を基準線2、3の交差点から順次基準線2、3に沿って敷設する。区分aにおいて、基準線2、3に沿って敷設したタ

4

イル10で囲まれた部分は、従来通り下地1に接着剤を塗布してタイル10を敷設するが、基準線2、3に沿ってすでに敷設されているタイル10は、粘着テープ5、6によって固定されているため、作業者がその上に載って作業をしてもタイル10が動くおそれはない。

【0011】次いで区分cにおいて、区分aと同様に両面粘着テープ7、8を貼着してタイル10を貼着し、残った区分b、dは既に敷設されているタイル10に沿った位置から順次敷設していくことになる。

【0012】上記の敷設手順では、区分ごとにタイル10を敷設しているが、基準線2、3に沿った部分を先に敷設し、後で接着剤だけでタイル10を敷設部分全体を敷設するようにしても良い。なお、両面粘着テープの貼着位置は、区分a、cだけに貼着するのではなく、テープ6を区分dの符号16の位置に、テープ8を区分bの符号18の位置に貼着するようにしても良い。基準線に沿って接着剤の塗布スペースを確保できる限り貼着位置はとわない。上記の実施形態では、テープ状の粘着剤を使用しているが、基準線2、3から導かれるタイル10の貼着位置の中央に両面粘着シートを貼着させ、同様の手順でタイル10を敷設させても良い。この場合には、タイル10の中央部が粘着剤で周縁部が接着剤で下地1に固着されることになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】タイルを敷設施工する下地の平面図

【符号の説明】

1下地、 2、3基準線、 4基準線側の接着剤塗布スペース、5、6、7、8両面粘着テープ、 10タイルカーペット

【図1】

